

『春日権現験記絵』（第19巻 第一段）

冬の最初の雪で覆われた木々の広がる晩秋の風景は、春日大明神の住まう神聖な場所を表しています。この場面は、盗賊たちが春日大社から14の神聖な鏡を盗んだ直後に現れ、このイメージは神々の静かな怒りを描いているとされています。また、すぐに後続く戦いの前に静かな一時の休息の場面であり、興福寺の武僧たちが盗賊たちを襲撃し、盗まれた鏡のうち3つを取り戻す場面へと展開します。僧侶たちの援助は、藤原氏の氏神を祀る興福寺と春日大社の精神的な関係を強調しています。